

令和6年度 学校評価 中学校結果

令和7年3月末 学校教育課まとめ

| No. | 学校名   | 1     |     | 2               |      | 3         |   |          |  | 4  |  | 表示以外の評価分野  |                     |
|-----|-------|-------|-----|-----------------|------|-----------|---|----------|--|--|--|--|---------------------|
|     |       | 中期的目標 |     | 今年度重点目標         |      | 学校自己評価結果  |   |          |  | 学校関係者評価  |  |  |                     |
|     |       | 項目数   | No. | 分野              | 重点目標 | 評価項目・取組内容 | 達成状況  | 取組状況改善方針 | 評価項目   | 実施方法   | 総合   |  |                     |
| 1   | 精道中学校 | 2     | 1   | 生徒の自主性、主体性を育てる。 | 2    | 2         | ◎生徒が自主的に時間を守るようにしている。<br>◎生徒が学校行事に積極的に参加するよう取り組んでいる。                                | C        | 本校ではこれまでも、生徒自ら学校や学年の行事を運営するなど、自立した生徒集団を作るよう指導してきた。本評価項目は、生徒に高い肯定的な回答が見られるものの、教職員はまだ課題があると感じている。今後、学校行事だけでなく、日常生活を通して、生徒が相互に呼びかけ、望ましい生活習慣が身に着けられるよう働きかけていけたいと考える。 | 生徒の自主性、主体性を高めるには、学校行事だけでなく、日常的に多様性が認められることが条件になってくるとはならない。グランドデザインに登校したくなるような学校づくりを前面に出して全教職員が一丸となって取り組むよう期待する。    | 生徒・保護者・教職員アンケートを比較し、差異のある部分を分析するなど、エビデンスに基づき学校評価が実施されている。また、学校運営協議会から「グランドデザイン」に盛り込まれている生徒や教職員についての他の意見を集約し、それらすべてをアンケート結果とともにグランドデザインに盛り込み、今後学校と家庭との連携に努める必要がある。                | 生徒、保護者、教職員の三者に対し項目について調査したところ、項目によっては三者の回答が見られるものがあった。生徒、保護者の肯定的な回答が教職員に比べて少ない項目については、謙虚に受け止め、来年度の学校経営に生かせるよう「グランドデザイン」に盛り込み、今後学校と家庭との連携に努める必要がある。 | 教職員がゆとりを持って生徒と向き合う。 |
| 2   | 山手中学校 | 2     | 2   | 地域との連携          | 4    | B         | ・地域住民や小学生が学校活動に関心を持ち、山手中学校への理解と信頼が深まる。<br>・取組内容: 学校行事の地域公開、地域住民との防災訓練、小学生向けイベントの開催。 | B        | ・生徒会や一部生徒の参加に留まり、情報発信不足が課題。特に小学生や岩園地域との交流が限定的。<br>・小学生を対象にした「山手中学校見学会」の企画。<br>・SNSを活用した地域住民への定期的な情報発信。<br>・地域行事の広報を強化し、幅広い参加を呼びかける取り組みの促進。                       | 小学生を対象にしたオープンスクールを実施して、山手中学校の魅力を直接伝えるようにしました。また、SNSで地域住民に対して定期的な情報発信を行いました。今後は更に地域行事への参加を促進することで、学校の絆の強化をしたいと思います。 | 教職員、生徒、保護者は同様の質問に対して、それぞれの視点の違いを比較している。また、学校運営協議会の方々は文章形式で具体的な評価をしていただき、総評を得ました。   | 全体的に良い評価をいただきました。今後、山手中学校がより開かれた学校を目指すために、地域やコミュニティの交流を一緒に進めたいことを提案されました。  | 生徒指導                |
| 3   | 潮見中学校 | 3     | 1   | 生徒指導            | 3    | 3         | ◎個々の生徒の思いや願いを大切にしながら、基本的な生活習慣の確立と規範意識の向上に努めている。<br>◎不登校生の状況を把握し、適切な働きかけをするよう心がけている。 | B        | 「教育相談の充実」については「学校生活アンケート」の実施時期を今年度から柔軟に行い、各学年の状況に応じて取り組んだ。また校内サポートルームの運用開始にあたり、できる限り寄り添える環境作りを整えて、個々の生徒の思いや願いを大切にしていけることを取り組んだ。                                  | 不登校生徒への取組は色々考えている。全ての生徒の居場所を作っていくことは難しい。すぐに解決できる問題ではないが、取り組みを続けてもらいたい。   | 生徒、保護者、教職員を対象としたアンケートを実施し、集約してグラフ化している。また、学期1度、学校運営協議会を開催し、学校だけでなく、地域・保護者の見方や考え、生徒の現状やさまざまな思いを届けようとしている。関係性を構築し、豊かな感性に基づいた学びを実践し、教師が磨いていく。また、教職員一人一人が学校経営に参画する意識を持つとともに、協働体制を築く。 | 今年度は「学校防災体制推進校」としての体験も踏まえ地域と連携した防災体制について推進していた。また生徒の居場所づくりについても、今年度から始まった校内サポートルームをはじめとした不登校生に対する支援について充実を目指してもらいたい。                               | 学校の取組 防災安全教育        |